2023年度

# 事 業 計 画 書

2023年 4月 1日から
2024年 3月31日まで

# 事業計画の概要

2022年度も引き続き新型コロナウイルス感染症が猛威を振るいました。しかしながらワクチン接種も進み、世の中ではwithコロナへ向けての対応がとられる中、豊田理化学研究所でも、豊田理研懇話会やフェロー研究報告会は、現地での講演とオンライン配信とのハイブリッド方式での開催が定着し、異分野若手交流会も3年ぶりに現地で対面して交流をすることができました。

助成事業では、新しい大型の助成制度を開始し、スカラー共同研究は拡大、充実を図り、新しいPhase1を募集し、助成チームを選定することができました。また、新しいフェロー制度によるライジングフェローの募集も開始することができました。

2023年度は、新しい助成制度を本格化させる段階に入ります。スカラー共同研究はPhase1が開始され、Phase2の募集も開始されます。新しいフェロー制度では、ライジングフェローを採択し、2024年度からの助成に向けての準備段階となります。応募対象範囲を広げた「海外大学院進学支援制度」では、より多くの優秀な学生を採択し、オーバーシーズ・プレドクトラル・フェロー（OPF）として、海外大学院での博士学位の取得を支援します。

2022年度は、引き続き新型コロナウイルスや半導体不足による影響による自動車生産の遅れがあったものの、トヨタグループ各社の堅調な業績のもと、豊田理研の収益は2021年度よりも増加しました。2023年度は、引き続き半導体不足やウクライナ情勢により、世界経済の先行きは不透明でありますので、2023年度の経常収益は、2022年度実績よりも減少を見込みました。一方、2022年度の経常支出は、前年度比約1割増を見込んでおります。2023年度の経常支出は、助成事業の推進・拡大を図るため、2022年度実績見込み比約1割増の予算計画を立てています。

以下、各事業の具体的な計画を説明致します。

# 1. 研究事業

## 1-1. フェロー研究活動

### (1)フェローの状況と研究テーマ

2023 年度の常勤フェローは、継続５名、客員フェロー継続 1 名で、表 1、表 2 に記載したテーマについて研究を進めてまいります。

表 1.　2023 年度　常勤フェローと研究テーマ

| 在籍 | 氏　名 | 研究テーマ |
|---|---|---|
| 4 年目 | 伊藤敏幸　（鳥取大学　名誉教授） | イオン液体機能材料の創成 |
| | 松下裕秀　（名古屋大学 名誉教授） | ブロック共重合体新分子設計によるメソスケール周期構造・準周期構造の構築 |
| 3 年目 | 大谷博司（東北大学　名誉教授）＊ | 第一原理計算に基づく理論状態図の構築と準安定物質創成に関する研究 |
| | 田中秀樹（岡山大学 名誉教授）＊ | 柔軟な水素結合による水と氷の多様性の発現機構 |
| 2 年目 | 前野悦輝（京都大学　名誉教授）＊ | 非従来型超伝導物質の研究 |

＊主な研究実施場所が大学であるフェロー

表 2.　2023 年度　客員フェローと研究テーマ

| 在籍 | 氏名 | 研究テーマ |
|---|---|---|
| 2 年目 | 瀧川　仁（東京大学　名誉教授） | 角度分解 NMR による電子系の隠れた秩序の検証 |

### (2)フェロー研究報告会

フェロー研究報告会を９月、２月の２回に分けて開催し、研究活動の成果を紹介いたします。集会方式とオンライン方式のハイブリッドで実施する予定です。

表３に開催予定を記します。

表 3. フェロー研究報告会

| 通算回数 | 実施年月 | 発表者 | 場所 |
|---|---|---|---|
| 34 | 2023 年 9 月 | 在任 2～3 年目<br>常勤フェロー | 井口洋夫記念ホール |
| 35 | 2024 年 2 月 | 在任最終年<br>常勤フェロー、客員フェロー | |

### (3)豊田理研ワークショップ

豊田理研が主催するワークショップは、フェローが中心となって、国内外の著名な研究者を招聘し、特定の研究分野に関して集中的に議論する場を提供することで、各研究分野の進展に寄与しようとするものです。

2023 年度は、表 4 に示す 2 件を集会方式で実施する予定です。

表 4.　2023 年度　豊田理研国際ワークショップ開催予定

| 通算回数 | 実施年月 | 代表者 | テーマ | 場所 |
|---|---|---|---|---|
| 14 | 2023 年 9 月 | 伊藤敏幸フェロー | SDGs 実現に向けた生体触媒利用の最先端研究 | トヨタ産業技術記念館 |
| 15 | 2024 年 2 月 | 大谷博司フェロー | 合金状態図の材料開発，プロセス制御への展開 | ⑴井口洋夫記念ホール<br>⑵トヨタ産業技術記念館 |

## 1-2. 学術談話会の開催

### 1-2-1. 豊田理研懇話会

「最先端で活躍されている著名な先生をお招きして難しいことをやさしく話していただく」豊田理研懇話会は、豊田中央研究所の協賛で、研究事業の一環として年 3 回実施しています。広くホームページでも公開し、常勤フェロー、客員フェローの他、近隣の大学、研究機関の方々にも参加いただいて、活発な討議をしていただきます。

### 1-2-2. 物性談話会

物性物理学研究者の啓発を図る事を目的に、2023 年度も名古屋大学と共催で「物性談話会」を 8 回開催いたします。表 5 に開催予定を記します。

表 5. 2023 年度 物性談話会開催予定

| 回 | 実施年月 | 講演者 | 講演テーマ |
|---|---|---|---|
| 1 | 2023 年 4 月 | 大阪大学<br>教授　桂木洋光 | 階層粉体の基礎物理特性解明と衝突応答 |
| 2 | 2023 年 5 月 | 東京大学<br>教授　有田亮太郎 | マルチポロニクスの第一原理物質設計 |
| 3 | 2023 年 6 月 | 早稲田大学<br>教授　溝川貴司 | エキシトニック絶縁体における電子正孔相関の光制御 |
| 4 | 2023 年 7 月 | 理化学研究所<br>研究員　井上伊知郎 | ナノ集光 X 線自由電子レーザーを利用した構造解析法の開発 |
| 5 | 2023 年 9 月 | 芝浦工業大学<br>教授　山本文子 | パイライト型高エントロピーカルコゲナイドの高圧合成とその機能開拓 |
| 6 | 2023 年 10 月 | 東北大学<br>教授　高橋幸生 | タイコグラフィーX 線吸収微細構造法の開発と機能性材料の構造/機能相関解析への応用 |
| 7 | 2023 年 11 月 | 愛知工業大学教授<br>名古屋大学名誉教授<br>佐藤憲昭 | 新奇量子凝縮相の探索的研究と特性解明：<br>フラクタル超伝導とエキシトン絶縁体への挑戦 |
| 8 | 2023 年 12 月 | 東京大学<br>教授　木村 剛先 | 新しいタイプのマルチフェロイック結合の創成および新規マルチフェロイック物質開発 |

### 1-2-3. 分子科学フォーラム

分子科学の発展を希求する幅広い研究者に討論の場を提供することを目的に、2023 年度も分子科学研究所と共催で「分子科学フォーラム」を 4 回開催いたします。

なお、「分子科学フォーラム」は例年同様、市民講座として一般の方々にも公開いたします。表 6 に開催予定を記します。

表 6. 2023 年度 分子科学フォーラム開催予定

| 回 | 実施年月 | 講演者 | 講演テーマ |
|---|---|---|---|
| 1 | 2023 年<br>6 月 2 日(金) | 東京大学<br>教授　竹内昌治 | 未定 |
| 2 | 2023 年<br>10 月 20 日(金) | 分子科学研究所<br>准教授　瀬川泰知 | 未定 |
| 3 | 2023 年<br>12 月 15 日(金) | 東京大学<br>教授　香取秀俊 | 未定 |
| 4 | 未定 | カリフォルニア工科大学 フレッド・カブリ冠教授<br>東京大学 カブリ数物連携宇宙研究機構 機構長<br>アスペン物理学センター 理事長　　大栗博司 | 未定 |

## 2. 助成事業

### 2-1. 豊田理研スカラー

#### 2-1-1. スカラーの状況

博士の学位を有し、所属大学の推薦を受けた優秀な若手教員の中から、研究課題が当所の設立趣旨、目指す方向と合致する方々を選定し、研究費用の一部を助成する制度です。

2023年度スカラー募集は、昨年度と同様の20大学（工学系研究科、理学系研究科に加え、農学系研究科など）を指定校としました。更に大学付属の研究所 6箇所と一般応募枠も加え募集を展開しました。

外部委員 6 人の審査委員で審査を行った結果、62 名の応募者の中から、表 7 に示す 45 名を採択候補として選定いたしました。

採択された研究者には 1 年間規定の助成金を支給すると共に、助成金獲得が実績となるように贈呈書を発行します。

表 7.　2023 年度　豊田理研スカラー採択候補者　…　45名

| No | 大学名 | | 氏名 | 職位 | 研究テーマ |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 北海道 | 工 | 米田　友貴 | 助教 | 純粋な反芳香族性を示す窒素架橋型環状π共役オリゴピリドンの創出 |
| 2 | | | 角田　毅 | 特任助教 | リボソーム翻訳後修飾ペプチドにみられるD-アミノ酸の形成機構の解明 |
| 3 | | 理 | 今枝　佳祐 | 助教 | 金ナノ粒子と分子の相互作用を利用した光アンテナ材料の開発 |
| 4 | | | 島尻　拓哉 | 特任助教 | 非芳香族/反芳香族スイッチングに基づく新奇応答系の構築 |
| 5 | 東北 | 工 | 青木　英恵 | 講師 | ナノ磁石ーセラミクス界面のトンネル伝導電子の束縛状態に基づく超広帯域電気-磁気-光学効果の発現と制御 |
| 6 | | | 岡谷　泰佑 | 助教 | ワイヤグリッド偏光子付きマルチコア光ファイバを用いた超小型・高分解能ロータリエンコーダ |
| 7 | | | 中野　貴文 | 助教 | 耐熱性と軟磁性を両立する磁気トンネル接合を用いた脳磁場センシング素子の開発 |
| 8 | | | 山本　俊介 | 助教 | 高分子電気化学トランジスタ素子の特性制御と神経模倣素子応用 |
| 9 | 筑波 | 計算科学 | 原田　隆平 | 准教授 | タンパク質の基質特異性発現メカニズムを解明する分子シミュレーション手法の開発：新規基質の合理的デザイン実現にむけて |
| 10 | | | 堀　優太 | 助教 | 理論化学による無水水素イオン伝導プロセス機構の解明および材料開発への理論提案 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 11 | | 生命環境 | 木下　奈都子 | 助教 | 高分子フレキシブル薄膜による極薄電極の応用と蛍光イメージングとの組み合わせによる非侵襲的・リアルタイムな植物のストレス計測 |
| 12 | 東京 | 理 | 磯崎　瑛宏 | 特任准教授 | 量子化された細胞の性質を解明するための高機能マイクロカプセルの創出 |
| 13 | | 物性研 | 鈴木　剛 | 助教 | ねじれヘテロ2層遷移金属カルコゲナイド結晶における光機能性の研究 |
| 14 | 慶應義塾 | 理工 | 福井　有香 | 専任講師 | ナノサイズの水滴を反応場としたグリーン微粒子作製技術の開発 |
| 15 | 早稲田 | 理工 | 高山　あかり | 准教授 | ２次元ディラックノーダルライン物質の構造と電子状態および輸送特性の解明 |
| 16 | | 総合研 | 杉山　夏緒里 | 次席研究員 | ラマン分光法とリピドミクス解析による大動脈瘤破裂予測因子の探索 |
| 17 | 東京医科歯科 | 生体材工 | 堀　武志 | 助教 | 食資源のサステナビリティを拓く高開口率足場シートを用いた３次元組織構築技術の開発 |
| 18 | 新潟 | 医歯学 | 鈴木　絢子 | 特任助教 | 足場材コラーゲン分子フッ素化により基底膜成分を付与した高機能化口腔粘膜<br>インビトロモデルの開発 |
| 19 | 信州 | 繊維 | 根岸　淳 | 准教授 | ヒト細胞とブタ細胞外マトリックスから成る小腸モデルの開発 |
| 20 | 名古屋 | 工 | 高橋　倫太郎 | 助教 | シリカナノ粒子の多様な自己集合体を利用した高機能有機-無機ハイブリッド材料の創製 |
| 21 | | | 平井　大悟郎 | 准教授 | 巨大磁気抵抗効果を示す酸化物トポロジカル物質の開発 |
| 22 | | | ゾウ　シャオユン | 特任助教 | バイオインスパイアード多孔質アンカーを介したポリマー/金属間接合の構造最適化 |
| 23 | | 医 | 佐藤　和秀 | 特任講師 | 量子ナノマテリアルとマイクロバブルによる近赤外応答性プローブ標的がん治療評価法の確立 |
| 24 | | 素粒子研 | 風間　慎吾 | 准教授 | 暗黒物質検出器高感度化のためのハイブリッド光センサーの開発 |
| 25 | 名古屋工業 | 工 | 徳永　透子 | 助教 | Fe-Ti共晶合金へのCo添加による新規軽量高強度材料の開発 |
| 26 | 名城 | 農 | 天野　健一 | 准教授 | 液体金属中における様々な二物体間の平均力ポテンシャルの研究 |
| 27 | 豊田工業 | 工 | 渡邉　保真 | 准教授 | 放電プラズマを利用した極超音速気流制御と燃焼を利用した能動的空力制御への応用 |
| 28 | 岐阜 | 工 | 盧　曉南 | 准教授 | 制約充足プログラミングと組合せテストを併用した離散最適化問題の求解手法とその応用 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 29 | 三重 | 工 | 田港　聡 | 助教 | 正極/固体電解質界面の構築による高電圧正極反応の制御 |
| 30 | | | 晝河　政希 | 助教 | 組織工学的人工腱開発のための筋-腱および腱-骨段階構造モデルの作製 |
| 31 | 京都 | 工 | メーナカ　デ　ゾイサ | 講師 | スマートフォトニック結晶レーザー |
| 32 | | | 大谷　俊介 | 助教 | 環状分子Pillar[n]areneを用いた多孔質性ネットワークポリマーの合成とフッ素化合物への吸着特性評価 |
| 33 | | | 玉井　康成 | 助教 | 光るプラスチック太陽電池の開発 |
| 34 | | | 三浦　理紗子 | 助教 | 腫瘍免疫環境を可視化する光音響応答性多糖ナノ粒子型免疫アジュバントの開発 |
| 35 | | 理 | 山本　遥一 | 助教 | 極端紫外レーザー光電子分光による気液界面における物質の電子構造と電気二重層の形成の研究 |
| 36 | | | 唐島　秀太郎 | 特定助教 | 紫外線吸収によるC=C二重結合の超高速光異性化反応過程の解明 |
| 37 | | 化学研 | 谷藤　一樹 | 助教 | 二酸化炭素資源化を目指した均一系金属-硫黄触媒の創出 |
| 38 | | | 行本　万里子 | 助教 | 高周期14族元素-炭素間三重化学種の創製と応用:含高周期14族元素π結合と共役特性の解明 |
| 39 | | 高等研 | 門田　健太郎 | 特定助教 | 金属ーカルバメート骨格の結晶化を利用した低濃度CO2回収手法の開発 |
| 40 | 大阪 | 基礎工 | 石部　貴史 | 助教 | 原子濃度制御による高性能カルコゲナイド熱電薄膜の創製 |
| 41 | | ｴﾏｰｼﾞﾝｸﾞｻｲｴﾝｽ | 古川　可奈 | 特任助教 | 輪状軟骨の“パターン”と“形”を生み出す謎を解く |
| 42 | | 情報科学 | 平井　健士 | 助教 | 3次元空間を飛び回るUAV同士の無線通信のための確率幾何を用いた通信性能解析と飛行高度の最適化 |
| 43 | 神戸 | 工 | 森田　健太 | 助教 | 電子顕微鏡で特定の細胞小器官を観察するための電子染色プローブ開発 |
| 44 | 九州 | 工 | 王　振英 | 助教 | ペロブスカイト太陽電池の蒸着型製造における熱流体物理 |
| 45 | 熊本 | 先導機構 | 関根　良博 | 准教授 | 電子移動型金属錯体の創出と磁気電気物性制御 |

### 2-1-2. 豊田理研異分野若手交流会

若手研究者の育成や連携の促進を狙いとして、「豊田理研スカラー」を対象に、2016 年度から実施している異分野若手交流会を 2023 年度も開催いたします。コロナ状況も加味し、充分な感染対策を準備した上で、対面での集会を予定しています。

さまざまな分野の研究者に集合していただき、異分野間の情報交換やネットワーク作りを支援し、新たな研究テーマ創出の機会を提供していきます。2023 年度も、当年度採択のスカラーに加え、過去のスカラー採択者とのネットワークを構築し、年度を跨いだスカラー間の交流の充実を図っていきます。交流会概要を表 8 に示します。

表 8. 2023 年度 豊田理研異分野若手交流会概要

| 豊田理研異分野若手交流会 | | | |
|---|---|---|---|
| 実施年月 | 2023 年 8 月 7(月)～9(水) | 方法 | 集会方式 |
| 場所 | ミッドランドホール(ミッドランドスクエア オフィスタワー5 階) | | |
| 参加者 | 豊田理研スカラー他、<br>豊田理研フェロー、企画・運営委員、審査委員 など | | |
| 内 容 | 研究紹介プレゼンテーション、ポスターセッション、特別講演、懇親会 など | | |

### 2-1-3. 豊田理研スカラー共同研究

「豊田理研異分野若手交流会」に於いて、スカラー間に生まれた共同研究の芽を支援する「豊田理研スカラー共同研究」（Phase１）を実施いたします。

2023年度後半には、Phase１の実施を経て、更に大きな進展が期待できるテーマについて、選考により2024年度から実施のPhase2へと移行します。Phase2では助成金の追加、メンバーの補充等を行い、

・異分野連携型「新研究領域」の創出
・グループリーダーの育成
・優秀な若手研究者間の人材ネットワークの構築

を目指していくことになります。

応募のあった共同研究Phase１　18件の内、審査委員会で採択された10件について、表9に記載いたします。

表 9. 2023 年度 豊田理研スカラー共同研究(Phase1) 採択候補・・・10 件

| No. | 大学 | 氏名 | 職位 | 共同研究テーマ |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 名古屋 | 吉田 紀生 | 教授 | 酸化還元状態と共役したタンパク質の液-液相分離の解析と制御を可能にする分子ツールの開発 |
| | 岐阜 | 池田 将 | 教授 | |
| | 京都 | 菅瀬 謙治 | 教授 | |
| 2 | 東邦 | 柳瀬 隆 | 講師 | 化学気相蒸着法による強相関電子系 2 次元物質の基盤的合成技術の確立と創発機能デバイスの創出 |
| | 北海道 | 福地 厚 | 助教 | |
| | 名古屋 | 高牟礼 光太郎 | 助教 | |
| 3 | 大阪 | 大塚 洋一 | 准教授 | 多次元脂質分布情報を活かす多変量解析 |
| | 北海道 | 小山 聡 | 准教授 | |
| 4 | 名古屋 | 田畑 亮 | 特任講師 | 植物空腹・指令シグナル分子の機能解明と高機能性成長調整剤の開発 |
| | 筑波 | 重田 育照 | 教授 | |
| 5 | 豊橋技術科学 | 永井 萌土 | 教授 | 光技術と微細加工技術の融合による生体分子反応ダイナミクス解析 |
| | 京都 | 中曽根 祐介 | 助教 | |
| 6 | 九州 | 河添 好孝 | 助教 | 光照射による特定反応誘導可能な新規試験管内生命現象解析ツールの構築とその評価 |
| | 東京工業 | 金森 功吏 | 助教 | |
| 7 | 早稲田 | 竹澤 晃弘 | 教授 | 相変化材料を活用した高機能蓄熱装置の最適設計 |
| | 名城 | 宮田 喜久子 | 准教授 | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 8 | 九州 | 小野　利和 | 准教授 | 高ひずみ化合物の精密分子合成に基づくメカノクロミックポリマーの開発 |
| | 北海道 | 石垣　侑祐 | 准教授 | |
| | 北海道 | 百合野　大雅 | 助教 | |
| 9 | 大阪 | 岡本　行広 | 准教授 | 再生医療を加速する細胞培養ツールの開発<br>～ナノ細胞膜の編集・分析から細胞機能の制御～ |
| | 大阪 | 境　慎司 | 教授 | |
| | 三重 | 湊元　幹太 | 教授 | |
| 10 | 大阪 | 内田　幸明 | 准教授 | 液晶を用いたスピン機能開拓 |
| | 大阪公立 | 戸川　欣彦 | 教授 | |

## 2－2 フェロー制度

### 2-2-1 ライジングフェロー

日本国内の大学に所属する教員で、科学技術の分野において世界をリードする研究者に対して、大型の研究助成を継続的に実施することにより、研究の更なる進展を加速し、学術の振興、発展、および人材育成に貢献するための支援制度です。

過去に豊田理研スカラー採択の実績がある者の中から、活発な研究活動を実施している新進気鋭の研究者に助成を行う事で、将来一流研究者としての活躍が期待される者を「ライジングフェロー」としてサポートしていきます。

募集は、2023 年 2 月 1 日から行い、フェロー選考委員会で審査し、理事会にて審議・決定し、2024 年 4 月から助成を開始します。

| 項　　目 | ライジングフェロー |
|---|---|
| 助成形態 | 所属大学を通じた研究助成 |
| 助成金額<br>（含む間接経費） | 最大 2,000 万円/年 |
| 助成期間 | 最長 5 年間 |
| 新規採択人数 | 数名/年　以内 |
| 助成金使途 | 研究用途であれば、内容は特に問わない<br>（用途の一例：備品、消耗品、出張旅費、共同研究費、人件費、作業委託費　等） |

### 2－2－2 シニアフェロー

世界トップレベルの業績をあげている定年を控えた一流研究者に助成を行う事で、所属する大学等を拠点に研究を継続していただき、当該分野の更なる進展が期待される者を「シニアフェロー」として支援する制度です。年間最大 5,000 万円・5 年間を助成します。

なお、シニアフェローの募集は、ライジングフェローの応募・採択状況により検討していきます。

## 2-3. 特定課題研究

2021 年より特定課題研究の募集を休止しています。

（2021 年 10 月 11 日　第 43 回理事会　承認済み）

## 2-3. 若手人材育成事業

### 2-3-1. 海外大学院進学支援

優秀な日本の学生が国内の大学、大学院から博士号(Ph.D.)取得を目的に、海外の大学院進学を目指すことを支援する制度です。2022 年度募集から、より広く人材を募集するため、応募条件を拡大いたしました。

(1) 国際科学オリンピック国内大会一次選考(予選)通過者　　(代表選抜大会出場者から変更)
(2) 国際バカロレア認定校(DP)卒業者 (スコア＞36以上)
(3) 大学や財団などによって選抜され、2カ月以上の海外留学、インターンなどを経験した者
　但し、単なる語学留学は除く。

変更要点: (1)を変更、(2)(3)を追加

公募および選考委員による審査の結果、2022 年度は表 10 に示す 5 名が採択され、2022 年 9 月より既に 2 名が留学を開始しています。残る 3 名も留学先を選定中です。
また、準備コースとして 1 名が採択され、スピーキング講座などを受講し、現地大学の調査や訪問などの準備を始めています。

表 10. 海外大学院進学支援コース 2022 年採択者

＜海外大学院進学コース＞

| | |
|---|---|
| 氏名 | 大滝理貴 |
| 現在籍大学 | 東京大学工学部航空宇宙工学科　学部卒 |
| 留学先 | シカゴ大学コンピュータサイエンス学科 |
| 留学予定期間 | 2022 年 9 月　～　2027 年 8 月 |
| 応募要件 | 海外留学 |

| | |
|---|---|
| 氏名 | 広瀬　凛 |
| 現在籍大学 | 東京大学 理学系研究科地球惑星科学専攻　修士 2 年 |
| 留学先 | プリンストン大学 大気海洋科学科 |
| 留学予定期間 | 2022 年 8 月　～　2026 年 7 月 |
| 応募要件 | 海外留学 |

| | |
|---|---|
| 氏名 | 釜堀恵輔 |
| 現在籍大学 | 東京大学 理学部情報科学科　学部 4 年 |
| 留学予定期間 | 2023 年 9 月　～　2028 年 9 月 |
| 応募要件 | 海外留学、 2018 化学グランプリ金賞 |

| | |
|---|---|
| 氏名 | 島澤　理 |
| 現在籍大学 | 東京大学　医学部医学科　学部 6 年 |
| 留学予定期間 | 2023 年 9 月　～　2028 年 8 月 |
| 応募要件 | 海外留学 |

| | |
|---|---|
| 氏名 | 南出光悦 |
| 現在籍大学 | 慶応義塾大学 理工学部化学科　学部 4 年 |
| 留学予定期間 | 2023 年 8 月　～　2028 年 5 月 |
| 応募要件 | 海外留学 |

＜海外大学院進学準備コース＞

| | |
|---|---|
| 氏名 | 小野俊祐 |
| 現在籍大学 | 東京大学 理学部生物学科　学部３年 |
| 準備活動 | スピーキング講座受講、現地大学の事前調査・訪問 |
| 応募要件 | 2018 国際生物学五輪 銀メダル<br>日本地学オリンピック一次予選通過 |

なお、2023年の募集に関しましては、インターネットを利用し、昨年より1か月前倒しして、2023年2月1日から5月8日までの間で公募を行っており、本年もより多くの学生に門戸を拡げています。

＜海外大学院進学コース：留学支援中＞

| | |
|---|---|
| 氏名 | 山田啓介 |
| 採択年 | 2021 年 |
| 応募時所属 | 早稲田大学先進理工学部　電気･情報生命工学科 |
| 留学先 | University of Pennsylvania，Bioengineering |
| 留学開始 | 2022 年 10 月～ |
| 国際科学<br>オリンピック実績 | 日本生物学オリンピック2013　金賞、他 |

また、制度初年度に支援しました２名（オックスフォード大学）は2年の支援を終え、現在も現地でPh. D. 取得に向け留学中です。今後に続く後進のメンター役や、将来の豊田理研のコミュニティづくりなどにも協力してもらうため、留学支援終了後も若干の追加支援を行うことといたしました。

＜留学支援終了後の追加支援＞

| | |
|---|---|
| 対象 | 海外大学院進学コース　支援留学生 |
| 支援期間 | 2 年間の支援終了後、Ph.D.取得まで（最長 4 年間） |
| 支援金額（目安） | US＄6,000/年 |
| 主な役割 | ①　後進のメンター役<br>・　受験計画･受験ノウハウ、エッセイ指導、留学相談等<br>（準備コース学生を含む）<br>②　将来の豊田理研海外コミュニティづくり |

**2-3-2. 寄付**

若手人材育成を目的に活動している公的機関や財団、組織等の中から、その活動が当財団の目指す方向と合致する場合、その支援のために寄付を行う制度です。毎年、剰余金が見込まれる場合、寄付を検討します。具体的な寄付先、金額等はその都度理事会、評議員会で承認、決議いただく事にいたします。

## 3. 広報活動

### 3-1. 豊田研究報告の刊行（第 76 号）

2022 年度在籍のフェロー、客員フェローの研究報告に加え、豊田理研スカラー、スカラー共同研究の研究報告を記しました。2023 年 6 月に発行いたします。

詳細は、ホームページよりご高覧ください。

### 3-2. アニュアルレポートの発行

2022 年度の財団 1 年間の活動を掲載したアニュアルレポートを発行します。

財団の取り組み、目指すものを分かり易く記録としてまとめました。

2023 年 6 月に発行いたします。

### 3-3. ホームページの維持、管理

財団設立趣意書、沿革、公開情報等をまとめた「財団概要」、事業内容の詳細を記述した「事業紹介」、フェローの研究内容・成果を掲載した「フェロー紹介」、公募に関する情報をお知らせする「募集情報」、財団のイベントなどをお知らせする「トピックス記事」等をタイムリーに入れ替え、常に新しい情報を提供いたします。